

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：山城 克己 (やましろ かつみ) 住所：洲本市五色町 年齢：46歳</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>施設：ビニールハウス 29a 経営内容：ハウスいちご 23a（高設栽培） 育苗ハウス 6a 労働力：本人、妻 出荷先：スーパー、ケーキ店 観光（もぎとり）</p>  <p>夫婦でいちご作業の様子</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>1999年 大手スーパーに勤務しながら県農業会議の紹介により、土日に明石市魚住町清水にて体験実習(いちご)を実施 2000年 就農を決意し退職後 農業大学校実践農場研修を実施、 2001年 受け入れ体制がある五色町で就農(当初高設いちご 16a) 2002年 高設いちご 23aに規模拡大 2008年 ひょうご安心ブランド認証取得現在に至る</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストレスが無いこと。ストレスがないと心身共に健康になれる、幸せになれる。 • お客さんに、おいしいと言われ評価された時、いちごを作って良かったと思う。 <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 思った以上に経費が必要であったこと。(すぐに数十万円単位のお金がかかった。) • 農業は倒産することはないが、自然相手で作業は天候に大きく左右される。 • 休みがない。
<p>農業をめざした動機</p> <p>サラリーマン勤務時代、仕事の環境が悪く、将来に不安を感じていた。 そんな時、職業として農業に注目し、県農業会議へ相談し、体験実習受入農家が誇りを持ち取り組む姿勢に感銘し、農業を志すことを決意した。 その後、農業大学校実践農場研修を経て、就農に至った。就農前後に様々な支援があり、感謝している。</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> • お金が必要(最初は1,000万円必要ではないかと思う)であり、ある程度の投資をしないといいものは作れない。 • 1人ではダメである。1人と2人とでは、4～5倍作業の段取りが違う。 • 儲かるものではないが、農業は倒産しない。 • 一に負けん気と根性。二に体力が必要。 • 農業の仕事が好きでないとできない。